

**市川市**

**「地域ねこ対策」**

**取り組み例**

**(実施参考資料)**

**作成 ねこだすけ市川**

## ケーススタディ 1

地域の環境：神社を含む閑静な住宅地

猫の頭数 着手時（全頭未手術） 16年11月オス 5頭、メス 6頭

現在までの避妊去勢手術頭数 オス       頭、メス 5頭

里親に出した頭数 オス       頭、メス 1頭

猫の頭数 20年5月現在（3年半経過） オス 1頭、メス 3頭

きっかけ

1本の細い道の左右に、古くからの一戸建て住宅が並ぶ閑静な住宅地。隣接の神社に以前から猫の遺棄が絶えず、地域の人達が手分けして保護していたが、それも限界に達していた。そのうちの一軒であるUさんが、屋内では飼いきれない野良猫に、数年前から庭で餌をやり始め、繁殖をしてしまい、隣のYさんから糞害と餌やりについて苦情を言われた。Uさんは餌やりをやめたが、3ヶ月たっても猫がどこにも移動しないので、仕方なくまた餌やりをはじめた。全ての事情を知った、Uさんの向かいに住むKさんが市行政に相談し、地域ねこの活動をしているNPOに相談。

活動内容

NPOメンバーより「地域ねこ対策」を説明した数時間後には、Kさんが通りをはさむ左右22軒全てから対策同意の署名を集めた。

自治会長含め15名の参加者により第1回目の猫対策住民会議が開かれ、Yさん宅以外にも糞被害は発生しているが、猫の排除を望む人は一人も無く、

子猫が屋外で衰弱するのを見るに耐えないという理由で、対策を望む人が多かったと、Kさんより報告があり、早急に避妊手術のため捕獲を開始すること、手術代は22軒に回覧をし、協力を求めることを決定。

## その後

対策開始から3ヵ月後には子猫を含め全てのメス猫の避妊手術が完了し、子猫の里親探しも地域住民有志とNPOとの協力で行われた。その間も3回ほど猫対策会議を開き、活動経過報告も地域住民に回覧した。Uさん宅裏にトイレと寝床を設置したが、問題となっているYさん宅との間の植え込みへの排泄は完全には無くならず、Uさんと有志の方々に掃除をしている。寄付金の残金は餌代に回され、また、近隣の猫の飼い主達も餌をUさん宅に持ち寄っている。遺棄違反防止の回覧を隣接地域に配布したこともあり、その後神社での遺棄違反も無くなった。

## 解説

他地域では、地域住民達が餌やりをしている人に責任追及をすることが多く見られるが、当地域では住民の殆どが餌やりのUさんの気持ちを理解し、猫との共生を望んでいたところが特徴的である。当地域のように周りの人から餌やりをしている人に手を差し伸べて対策が始まるケースは、反対者へも公平な態度を取れるため、理解を得られやすく、対策がスムーズに進められる。また、当地域は古くからの一戸建て住宅が多いため、地域への関心も強く、普段から住民間のコミュニケーションが取れていたことも対策の成功につながっている。

## ケーススタディ 2

地域の環境：住宅地

猫の頭数 着手時（全頭未手術）19年7月オス 5頭、メス 7頭

現在までの避妊去勢手術頭数 オス 4頭、メス 6頭

里親に出した頭数 オス 1頭、メス 1頭

猫の頭数 20年5月現在（10ヶ月経過）オス 4頭、メス 4頭

きっかけ

遠くからの通いの人も含め、無責任に餌をやる人が多く、野良猫が増え続け、糞被害をはじめ鳴き声や家屋への侵入被害などが多発していた。自治会役員を家族に持つTさんは、自身も猫が好きでないことも有り、市内で開催された「地域ねこ対策セミナー」に参加し、法律に沿った方法で野良猫を減らすことができることを知り、セミナー主催者のNPOに相談。

活動内容

Tさんと幼馴染のNさんは同地域で以前から個人的に野良猫の避妊去勢手術をすすめていた。TさんはNさんと協力して対策を始めるにあたり、自治会会合で対策への協力を要請し、地域ねこ対策が掲載された市の広報や他啓発資料を自治会名で回覧し、市の野良猫避妊去勢手術費用助成金への申請協力者を募った。動物愛護団体の捕獲協力もあり、数ヶ月の間に全頭の避妊去勢手術が完了。手術代は全て市からの助成金で賄い、手術した10頭の写真を添付し活動内容を市の愛護動物担当部署と自治会へ報告。また、子猫の里親探しも愛護団体を通じ、行っている。地域の餌やりの人達にはルールに従っ

たやり方に協力していただく一方、「無責任な餌やり禁止」の貼り紙をして、マナー違反の餌やりの人達には説明の上、やめていただくなどの対処をしている。

## その後

数回の回覧や、それまでの捕獲活動などを見て、自分の近所で目に付いた時糞の片付けをしてくれる人達も現れるようになった。手術をしたことで猫がおとなしくなり鳴き声も減り、また、何よりも「増えていない」ので、苦情も無くなった。一方、まだまだ地域住民の意識に格差があり、協力者も少ないため、手術済み猫の管理費用や今後の手術費用の確保が課題とされている。

## 解説

猫を好きでない人と、猫に思いを寄せる人が「野良猫を減らしたい」という共通の目的のために一緒に活動をする代表的な例といえる。環境的に自治会への働きかけがしやすい立場であったTさんが対策発起人であったことは幸いであるが、回覧や貼り紙などで地域への積極的な広報をして行くことは、それまで野良猫問題に無関心だった人にも「住環境問題」として関心を持っていただくための最良の手段である。当地域は避妊去勢手術完了後まだ月日がたっていないので、頭数にさほど変化は見られないが、今後頭数の減少が実感されてくるにつれ、地域での賛同者も増えていくと思われる。

### ケーススタディ 3

地域の環境：大型マンション・小公園含む住宅地

猫の頭数 着手時（全頭未手術） 18年4月オス5頭、メス12頭、不明13頭

現在までの避妊去勢手術頭数 オス      頭、メス11頭

里親に出した頭数 オス1頭、メス1頭

猫の頭数 20年5月現在（2年経過） オス2頭、メス8頭

きっかけ

大型分譲マンションに隣接する小公園を中心に野良猫が非常に多く、周辺住宅街とマンション敷地内で糞害、餌の食べ残し、家屋への侵入、車への被害などが多発しており、また、カラスにやられた子猫の死骸が散乱するなど、悲惨な状況も見られ、餌をやる人と反対する人の間で険悪な雰囲気になっていた。

自分も被害にあっていた、住宅街に住むTさんが、「地域ねこ対策」活動を進めているNPOに協力を仰ぎ、マンション自治会長と相談し、とりあえず「猫対策住民会議」を開くことにした。

活動内容

第1回目の住民会議は、事前にTさんが友人達と協力してマンションと周辺住宅街にチラシを各戸配布したこともあり、30名を越える参加者があった。マンション自治会長だけでなくマンション管理組合役員、市の愛護動物担当職員、NPOも参加しながら、猫からの被害で憤慨している人、望んでして

いるわけではないが命あるものへの同情から餌やりを続けている人など、さまざまな立場の人達が熱い討論を交わした。処分を望む声も多い中、市の職員から「行政であっても法律上、野良猫の処分はできない。」ことが明確にされ、またNPOからも被害防止に有効な方法の紹介もあり、最終的には「問題解決のためには住民である自分達が立ち上がるしかない。」との結論に。

会議後、有志が10人ほど残り、具体的に活動手順が話し合われた。その結果、地域内に餌場が3ヶ所あることとおよその頭数が判明。各餌場ごとに避妊手術を早急に進めていくことに決定。マンション管理組合から手術費用の援助の申し出があり、不足分はTさんが中心となり地域内で寄付を募ることに。駐車場に置き餌をして行く人や、通勤途中で餌をばら撒いて行く人達には、頭ごなしに「餌やりを禁止」するのではなく、貼り紙などで、「対策進行中」をお知らせする方法を取った。

## その後

3ヶ所の餌場のうち1ヶ所で、餌やりの人が個人的な理由で餌やりが続けられなくなったため、途中、捕獲がたいへん困難になったこともあったが、次第にその猫達が他2ヶ所の餌場に現れるようになり、数ヵ月後にはメス全頭の避妊手術が完了した。その間、対策へのご理解とご協力をお願いする数回の回覧と合わせ、3回ほど住民会議を開いた。当初対策に反対していた方や猫嫌いの方々が積極的に寄付をしてくださった。住宅街に住む餌やりの高齢の男性は、当初、自宅庭で猫が増え続けていくことに焦りを感じていたが、費用の問題と自力で捕獲ができないことから手術に踏み切れず、近隣宅とも

陰悪になり悩んでいた。地域で対策が進められ、自分の立場も周囲に理解されるようになり、「精神的に救われた。」と喜んでいる。トイレを各餌やりさん宅に設置すると同時にマンションの植え込みなどには、対策に協力的な管理人の方が忌避剤を撒いたり掃除をしてくださり、また、車への被害を無くすために、駐車場の隅に寝床用発砲スチロールの箱を置くなどして被害防止策を講じている。

遺棄違反防止策としては、市で発行しているプレートをいたる所に貼り、「捨てにくい雰囲気作り」をしている。

#### 解説

大型分譲マンション、新興建売住宅街、その裏の古くからの一戸建て住宅街と、それまで殆ど住民間の交流がなかった地域であったが、地域のキーパーソンが対策発起人となり、猫問題をきっかけに地域のコミュニケーションに役立っている。共通の問題解決に向け、それぞれの立場の人が各々ができること（猫嫌いの人は資金面で、餌をやる人は猫の管理、自治会は会議の会場提供など）で対策に参加するという、非常にバランスの取れたケースである。地域ねこ対策が公益性のある対策であることが正しく伝わった結果であると思われる。

## ケーススタディ 4

地域の環境：住宅地の個人宅

猫の頭数 着手時（全頭未手術） 20年2月オス \_\_\_\_\_頭、メス \_\_\_\_\_4頭

現在までの避妊去勢手術頭数 オス \_\_\_\_\_頭、メス \_\_\_\_\_4頭

里親に出した頭数 オス \_\_\_\_\_頭、メス \_\_\_\_\_頭

猫の頭数 20年5月現在（3ヶ月経過） オス \_\_\_\_\_頭、メス \_\_\_\_\_4頭

きっかけ

一人暮らしのFさんが自宅庭で1匹の野良猫に餌をあげているうちに繁殖した。近隣に対し責任を感じたFさんは誰にも相談することもできず、悩みぬいた末、子猫を保健所の引き取りに持って行った。罪悪感に苛まれつつもその後、母猫が再度出産することを恐れ、地域ねこ対策を行うNPOに相談。

活動内容

地域ねこ対策の説明を受け、Fさんは自費で避妊手術を行うことを決心。NPOの協力を受け3週間で全4頭の避妊手術を完了。また、時間を決め置き餌をしないなど、正しい世話の仕方に変えた。

その後

庭にトイレも設置したが、スペースがなく餌場と近過ぎるためか（猫は餌場には排泄をしない習性有り）、隣接の駐車場での排泄を防ぐことができないため、駐車場の持ち主宅に説明に伺い、毎日掃除する旨伝えたところ、快諾を得た。また、周囲のアパートを含む数軒にも、市が発行している地域ねこ対策パンフレットを持参し、避妊手術が完了した旨の報告と、今後も庭で「猫

の管理」を継続していくことへのご理解をいただいた。

## 解説

このような小規模な個人宅で行われる活動も、「地域ねこ」を「地域住民の合意の下に地域で管理されている猫」と定義する時、対策の一つの形であると言える。地域ねこ対策で「合意を取るべき地域の範囲」は、すなわち「猫がテリトリーとしている範囲」であり、また言い換えれば「その猫が被害を起こしうる範囲」である。猫が出かけて行きそうな近隣に対し、「猫の管理を引き受ける人」が事情を説明し、ご理解をいただくことが重要である。

## ケーススタディ 5

地域の環境：広大な敷地を持つ寺院

猫の頭数 着手時（全頭未手術） 15年6月オス 15頭、メス 17頭

現在までの避妊去勢手術頭数 オス 2頭、メス 25頭

里親に出した頭数 多数（詳細は不明）

猫の頭数 20年5月現在（5年経過） オス 7頭、メス 12頭

きっかけ

参道沿いに並ぶ1軒の店で働くことになったYさんは、境内に多くの野良猫がいることに驚き、また、生まれてくる子猫がカラスの餌食になったりオス猫同士の喧嘩に巻き込まれて死んでいくことに胸を痛めていた。頭数の多さと敷地の広さに、個人での活動は不可能と感じ、「地域ねこ対策」の活動をしているNPOに相談。

活動内容

活動を始めるにあたり、YさんとNPOメンバーが本院事務所に同意を取りに行った。寺院側も墓地での糞被害苦情が殺到しているが、猫の処分もできず困っていたとのことで、境内での活動を快諾。その後の調査で猫のグループ（テリトリー）が3つに分かれていることが判明。Yさんが働く参道沿いの店に「活動ボランティア募集」の貼り紙をして仲間を集め、各テリトリーでの猫管理責任者を決め、同時に店頭には手術代募金箱を設置し、順次メス猫の避妊手術を進めていった。場所柄、猫に餌をやることを咎める人も無いため、通勤途中の人や子供連れで散歩している人が餌をやるような微笑ましい

光景も見られる。飢えている猫もおらず皆人懐こいため、愛着の湧いた猫を引き取って行く人も多い反面、遺棄違反も多発している。そういった状況を踏まえ、避妊手術、糞と食べ残しの清掃、遺棄違反防止対策を中心に活動を勧めた。寺院近隣の自治会にも協力を仰ぎ、数回にわたり回覧や掲示板への貼り紙で、遺棄違反防止に努めた。

## その後

参道沿いに並ぶ寺院から、猫の侵入と糞の被害苦情が出たが、「うんちパトロール隊」を結成して清掃を強化したり、対策の趣旨を説明に伺うなどして、ご理解を得ることに努めている。違反に遭遇した際、警察に通報してくれる人が増えたことも有り、次第に遺棄件数も減ってきている。募金も順調にたまり、常に手術代を準備しながらも、現在では猫の病気や怪我の治療費にも充てられるほどになっている。

## 解説

寺院、神社、墓地などでは、住宅地のように、猫問題を住環境問題として捉え、「住民主体の被害対策」といった側面から地域ねこ対策を始めることができない。「愛護対策」という側面から、通いのボランティアにより活動が進められることになるが、対策が数年に及んだ場合、人材を確保し続けることが非常に困難である。対策の終焉を早めるためには遺棄違反防止対策の徹底が最重要課題となる。

## ケーススタディ 6

地域の環境：大型の市営公園

猫の頭数 対策着手時 14年1月オス 14頭、メス 20頭

現在までの避妊去勢手術頭数（14年以降）オス       頭、メス 26頭

里親に出した頭数 約30頭

猫の頭数 20年5月現在（6年経過） オス 3頭、メス 4頭

きっかけ

公園の近所に住んでいたNさんが公園内の野良猫の避妊手術を個人負担で進めていたが、あまりにも遺棄違反が多いことと、公園利用者に猫の排除を望む人が多く、捕獲のための餌付けが困難なこともあり、個人で活動することに限界を感じ、地域ねこ対策を行っているNPOに協力を求めた。

活動内容

NさんとNPOメンバーが、公園を管轄する自治会を訪ね、公園内での活動の許可と対策への協力を求めた。自治会を通じ、周辺地域へ活動の必要性をアンケート調査。その結果、公園周辺でも公園の猫による被害が出ていることが判明。餌をやる場所や置き餌をしないことなどルールを決め、他の餌やりさんにも協力を求めた。公園内にトイレの設置はないが、糞をよくする場所に砂を山にして置き、Nさんが毎日清掃をしている。公園周辺に猫が散ることを防ぐために寝箱の必要性を市の公園緑地課に説明し、猫の安全も考え、目立たない場所を選んで寝箱を設置。周辺の5自治会の会長の方々にお集まりいただき、対策の説明を行い、数回に渡り回覧と掲示板で猫の飼い主へ終

生飼養を呼びかけ、遺棄違反防止への協力も仰いだ。また、遺棄違反があった際には、警察官を現場に呼ぶことを徹底して行い、許可を取った上で現場に警察の名で告知看板を立てることを繰り返し行った。避妊手術代は依然としてNさんや他の餌やりさんの個人負担に抛るところが大きかったが、公園利用者からの寄付やフリマでの売上も助けになった。捨てられた子猫の里親探しも、公園周辺住民が一時預かりなどの協力をしながらHPなどを利用して行った。

## その後

遺棄違反を見つけた人が、警察に通報してくれることも多くなった。また、近隣交番が「交番だより」で遺棄・殺傷違反防止を呼びかけてくれたこともあり、活動に対して地域での関心が高まってくるにつれ、遺棄違反も減少していった。過去、モラルを持たない餌やりさんとの確執の年月が永かったせいか、当初からの一部の猫排除派の人達の気持ちは頑なである。猫の管理の一環として餌やりをしているボランティアに対しても攻撃するので、対策から6年以上も立ち、実績をあげているにも関わらず、活動への表立った協力者は現れない。

## 解説

やはり公園での地域ねこ対策も前記のお寺などと同様の課題を抱えている。公園の場合は、管轄の自治会が率先して対策後継者となるボランティアを地域で募っていくことも手段の一つと考えられる。